

令和7年度学校評価 教員・生徒・保護者による評価結果比較表 【評価基準日:令和8年2月6日】

【教職員(行動指標)】	4: そう思う	3: どちらかといえばそう思う	2: どちらかといえばそう思わない	1: そう思わない	*: わからない
【生徒・保護者(成果指標)】	4: そう思う	3: どちらかといえばそう思う	2: どちらかといえばそう思わない	1: そう思わない	*: わからない
【評価基準】	4段階評価の平均 A:3.0以上 B:2.8以上 C:2.6以上 D:2.5以下				

領域等	評価の観点	教職員	平均	評価	生徒	平均	評価	保護者	平均	評価			
学校運営	開かれた学校づくり	ホームページの更新、学年通信の発行等を通じて、保護者や地域に情報を積極的に提供する。	3.5 (3.4)	A (A)	学校ホームページや学年通信、Google Classroom 等で、必要な情報が得られている。	3.4 (3.4)	A (A)	学校ホームページや学年通信、ラインネット等で、必要な情報が伝えられている。	3.4 (3.4)	A (A)			
		学校評議員会や授業・行事の公開を通じて、学校評議員の意見等を学校運営の改善に役立てる。	3.1 (3.2)	A (A)									
	生徒指導	登下校マナーの向上と事故件数の削減に向け、全教職員の共通理解を基盤とした指導を行う。	2.8 (3.1)	A (A)	交通ルールやマナーを守り、安全に登下校している。	3.5 (3.7)	A (A)	子どもは基本的な生活習慣や交通道徳が身につけている。	3.3 (3.4)	A (A)			
		適宜個人面談を実施するとともに、カウンセリングマインドの習得に努めることにより、生徒の内面理解を図る。	3.5 (3.5)	A (A)	先生方には、不安や悩み事を気軽に相談できる雰囲気がある。	3.2 (3.2)	A (A)						
		いじめ防止基本方針に基づき、計画的にいじめ対策に取り組み、いじめを生まない土壌づくりに努める。	3.4 (3.5)	A (A)	先生方からは、いじめを生まない、許さないという姿勢が感じられる。	4.0 (3.4)	A (A)	学校全体でいじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める姿勢が感じられる。	3.1 (3.1)	A (A)			
	進路指導	進路指導部と学年の連携を深め、3年間を見据えた計画的な進路HR・進路行事の実施と、その内容の充実に努める。	3.4 (3.3)	A (A)	進路選択や進路実現に向けた学習支援や行事、個別面談が充実している。	3.3 (3.3)	A (A)	子どもの主体的な進路選択や、進路希望の実現に向けた情報提供や支援体制が充実している。	3.1 (3.2)	A (A)			
		個に応じた進路相談を計画的に行い、生徒に自らの「在り方生き方」やキャリア形成について考えさせる。	3.2 (3.3)	A (A)									
	教職員の資質向上	学校の諸課題、特にICT機器の活用推進に係る校内研修の実施により、指導力の向上を図る。	3.0 (3.0)	A (A)									
		学力の三要素(知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等)の育成を目標とした授業改善に取り組む。	3.3 (3.3)	A (A)									
	危機管理体制の整備	実情に応じた危機管理マニュアルの見直しを行い、日頃から対応を意識した行動をとる。	3.0 (3.1)	A (B)									
不審者対応マニュアルに基づき、危機的事態への対応について研修を行う。		2.5 (2.8)	B (B)										
選択項目	学校教育目標の実現に向けた各部・各学年の具体的な経営方針を定め、その実現に向けて協働する。	3.2 (3.3)	A (A)					子どもの学年の経営方針(どのような生徒を育てたいのか)を理解している。	3.1 (3.2)	A (A)			
	勤務時間の適正化(「ノー部活デー」の取組を含む)を意識し、自身の業務の在り方とワーク・ライフ・バランスの見直しを行う。	2.8 (3.1)	B (A)	「ノー部活デー」の取組がなされ、バランスのとれた生活を送っている。(3年生は振り返って回答)	3.2 (3.3)	A (A)	「ノー部活デー」の取組により、子どもはバランスのよい生活を送っている。(3年生保護者は振り返って回答)	3.1 (3.3)	A (A)				
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	2.9 (3.1)	B (A)	令和4年度より実施されている新学習指導要領を念頭に、生徒の興味・関心に応えられる特色ある教育課程を編成(検討)する。	3.1 (3.1)	A (A)	子どもの興味・関心に対応した特色ある教育活動が行われている。	3.1 (3.1)	A (A)				
	基礎・基本の定着	3.2 (3.2)	A (A)	学習のための「基本的スキル」の育成と、主体的・対話的で深い学びを実現するための教授方法を創意工夫する。			入学時と比較して、子どもには主体的に学習に取り組む姿勢が育っている。	3.2 (3.3)	A (A)				
	総合的な学習(探究)の時間(課題研究)	3.3 (3.3)	A (A)	批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力からなる「探究力」を持った生徒の育成に努める。	3.2 (3.3)	A (A)							
	個に応じた学習指導の徹底	2.9 (3.1)	B (A)	「診断的評価」「形成的評価」の観点を取り入れることにより学習評価の精度を高めるとともに、「観点別評価」の普及と充実に取り組む。	3.0 (3.1)	A (A)	子どもに対して、個に応じたきめ細かな学習指導と評価がなされている。	2.9 (3.0)	B (A)				
	特別活動(学校行事等)	3.3 (3.4)	A (A)	生徒会活動やホームルーム活動において、生徒の自主的な態度と運営能力の育成・伸長を図るよう支援する。	3.4 (3.4)	A (A)	各種学校行事の内容や実施時期は満足できるものである。	3.3 (3.4)	A (A)				
共通項目	防災教育・安全教育	3.4 (3.3)	A (A)	学校行事(高校生ふるさと貢献活動事業を含む)の精選と行事内容の充実を図る。	3.2 (3.1)	A (A)							
	人権教育	3.2 (3.3)	A (A)	防災に関する訓練や授業等を通して、防災・減災の意識を高めることができる。	3.3 (3.3)	A (A)							
課題教育	情報教育	3.2 (3.3)	A (A)	3年間を見直し、生徒の発達段階や関心に応じた人権LHRを計画的に実施する。	3.2 (3.3)	A (A)	互いの違いを認め合い、自他を大切にしようとする態度が身につけている。	3.4 (3.4)	A (A)				
	環境・福祉教育	2.8 (3.1)	B (A)	生徒がICT機器を適切に利用し情報を活用する能力と、人権尊重を基盤とした情報モラルを育成する。	3.2 (3.3)	A (A)	子どもはスマートフォンやSNS利用時のルールやマナーが身につけている。	3.0 (3.2)	A (A)				
	学校の個性化と多様化	3.5 (3.4)	A (A)	ゴミや省資源等の身近な問題から生徒の環境への関心を高め、環境美化に取り組む姿勢を育てる。	2.8 (3.1)	B (A)	校内清掃に励み、身近な生活環境を美しく保とうと意識している。	3.4 (3.4)	A (A)				
独自項目	【自然科学科】各教科・科目でSTEAM教育をベースとした探究的活動(課題研究を含む)の充実を図る。	3.5 (3.4)	A (A)	【1年8組対象】STEAM教育では、教科の枠を超えた体験的な学びに「ワクワク」している。	3.3 (3.9)	A (A)							
	各教科・科目の授業及び特別活動等にSDGsの視点を取り入れ、17の目標と関連付けた実践を行う。	2.8 (3.1)	B (A)	SDGsを理解し行動することは、自分にとって身近な課題である。	3.3 (3.3)	A (A)	学校教育を通して子どもがSDGsに興味・関心を向けることは大切なことだ。	3.4 (3.5)	A (A)				
	SSH事業を軸として「教科横断的な学習」を推進している。	2.9 (3.1)	B (A)	探究的な活動を通して、理数的な視点で考察する力がついたと感じる。	3.1 (3.3)	A (A)	探究的な学びの機会が増えていると感じる。	3.2 (3.2)	A (A)				
【総合評価】			3.1 (3.1)	A (A)	【総合評価】			3.3 (3.4)	A (A)	【総合評価】		3.2 (3.3)	A (A)